



## 2009年 春季関東大会規定

### 規 定

#### 1. 選手登録

	登録人数	ベンチ入り	試合出場	シートノック 補助員
春季大会	29名以内	18名	15名	5名以内
春季決勝大会	29名以内	18名	15名	5名以内
マイナーリーグ	フリー	フリー	フリー	フリー
日本選手権予選	29名以内	18名	15名	5名以内
一年生大会	フリー	フリー	フリー	フリー

★ 春季大会 ⇒ 春季決勝大会

選手再登録 不可

☆ 春季大会 ⇒ 日本選手権大会予選

選手再登録 可

〔 春季大会で春季決勝大会に出場できず日本選手権大会出場予選に  
参加する場合は選手の入れ替えができる。 〕

#### 2. 抽 選

2008年秋季大会の順位に基き、5ブロックに振り分ける。

#### 3. 順 位

- (1) A B C D E の各ブロック第3位までに日本選手権出場権を与える。
- (2) 各ブロック4位以下は、順次第2次予選(3ブロック)に成績順に組み入れる。  
(第2次予選各ブロック第1位に日本選手権出場権を与える)
- (3) 関東大会優勝チームには、全日本中学野球選手権への出場権を与える。
- (4) マイナーリーグ参加チームで日本選手権に出場を希望する場合は、  
第2次予選にエントリーする必要がある。
- (5) 春季大会の順位は日本選手権の抽選順に反映する。
- (6) 順位決定
  - ① 勝ち数の多い方。
  - ② 2チームが同率の場合は、対戦の勝者。
  - ③ 3チーム以上同率の場合は、
    - (A) 同率全チームに対する勝者。
    - (B) 3チーム以上同率の場合で、(A)に該当しない場合は、失点の少ないチーム。
    - (C) 失点と同じ場合は、対戦の勝者。
    - (D) 前項(A) (B) (C)にても決まらない場合は、得失点差。
    - (E) 前項(A) (B) (C) (D)にても決まらない場合は、得点の多いチーム。
    - (F) 前項(A) (B) (C) (D) (E)にても決まらない場合は、その2チームどうしの勝者。



## 2009年 春季関東大会規定

### 試 合

#### 1. 開始準備

- (1) ダッグアウトは抽選の若番号が一塁側。
- (2) 先攻、後攻はメンバー交換時のキャプテンのジャンケンで決める。(メンバー表は4枚提出)
  - ・ 第一試合は、試合開始30分前
  - ・ 第二試合以降は、前の試合が4回を終了した時点
- (3) シートノック時間は5分とする。
- (4) 試合前のアップ  
練習時間10分間〈一塁側チーム〉前半5分間トスバッティング・後半5分間キャッチボール。  
〈三塁側チーム〉前半5分間キャッチボール・後半5分間トスバッティング。

#### 2. 試合の長さ

- (1) 規定試合は7回とする。7回を終了して同点の場合は、決着がつくまで、または審判が打ち切りを宣言するまで延長戦を行う。
- (2) 延長戦の場合、12回終了または試合開始4時間を経過しても勝負が付かないときはサスペンディッドゲームとし、後日に組み入れる。

#### 3. コールドゲーム

- (1) 関東連盟、ローカルルールを適用。  
(3回以降20点差、4回以降15点差、5回以降10点差)
- (2) 5回前に、または5回終了時点で同点のままコールドとなったときはサスペンディッドゲームとし、終了した時点の状態から継続試合を後日に組み入れる。

#### 4. 延期権

- (1) 延期権は春季全日程を通して一回限り使用可能。  
(延期権の提出は4月26日を期限とする)
- (2) 一年生大会の延期権は無い。

#### 5. 不戦敗

- (1) 不戦敗の場合は、0-7とする。



## 2009年 春季関東大会規定

### 選 手

#### 1. 登 録

- (1) 統一登録用紙で、抽選日の抽選前までに連盟事務局へ提出する。

#### 2. リエントリー

- (1) スターティングラインアップに入っている選手は、代わりの選手と入れ替わった後、一度だけ試合に戻ることができる。  
(先発9人に限り、一度交代しても再び一度だけ試合に戻ることができる)
- (2) 選手は元の打順に戻る。  
(先発投手は再び試合に戻れるが、投手として戻ることはできない)

#### 3. 臨時代走

- (1) 打者が死球を受けたときの『ケガの治療』や頭部に死球を受けた場合、休養時間を確保するために、打者走者に代わり臨時代走を認める。  
(リエントリーとは関係なく、控えの選手の中から臨時代走を送る)  
(一度交代した選手でも臨時代走になれる)
- (2) 本塁打、または死球で安全進塁権が認められた場合、走者が不慮の事故でその安全進塁権を行使できなければその場から臨時代走できる。
- (3) 但し、自らの責任による治療目的の退場については、通常の選手交代となる。

#### 4. その他

- (1) 試合中に内外野でハドルを組む場合は、3人以内とする。
- (2) コーチボックスの走塁コーチはインニングの途中で交代できない。
- (3) アーム用プロテクターを外すためにタイムアウトを要求できない。
- (4) 試合予定開始時刻から15分を経過しても、ユニホームを着用した選手が9名そろわないチーム、または、試合中に何らかの理由でユニホームを着用した選手が9名そろわないチームは没収試合とする。(ポニー規則 第18章 罰則 B)



## 2009年 春季関東大会規定

### 投手・捕手・用具

#### 1. 投手

- (1) 投手は1試合において、7イニングを越えて投球することはできない。
  - (2) 投手は所属チームの連続する2試合で10イニングを越えて投球することはできない。
  - (3) 投手の投球イニングを数えるときは、打者に対する1球、走者に対する送球も含まれる。  
(但し、アピールのための送球は含まれない)
  - (4) 投手の準備投球は6球、4球とする。(1分以内)
  - (5) 打者を狙って投球することを禁止する。
    - ① 捕手がインコースにボールを要求する場合、グラブの位置はストライクゾーンまでとする。
    - ② インコース高めには絶対にウエストボールを投げない。もしも投球がそれで頭部に投球が当たったと審判員が判断した場合は、投手は交代しなければならない。
    - ③ 同一投手が打者に対して死球を与えた場合は、3回目をもって交代しなければならない。但し、上記②に該当する場合は、1回目をもって交代するものとする。
- ※上記③項の適用に当たっては、6.08(b)の但し書き及び、[付記]、[注]によって打者に一塁が与えられなかった場合(ヒットバイピッチが記録されない)は本項③は適用しない。
- (6) ピッチングレコード
    - ① 選手権1次予選から関東決勝リーグへ進むチームは継続とする。
    - ② 選手権1次予選から2次予選に進むチームは継続せず、新規とする。
    - ③ マイナーリーグから2次予選にエントリーするチームは、新規とする。

注、サスペンディッドゲームのイニング数は、日程の都合上、そのゲームの継続試合との間に別の成立試合が入った場合、後続の次の試合の合計イニングから除く。  
ただし、トーナメントゲームの場合は、これを適用しない。

試合1	成立試合	4回	
試合2A	サスペンディッド	6回	試合2のイニングは、試合1と合わせて10
試合3	成立試合	6回	試合3は試合1と合わせて10
試合2B	継続試合	1回	試合2Bは試合2Aと合わせて7
試合4	成立試合	4回	試合4は試合3と合わせて10

#### 2. 捕手

- (1) 捕手といえども走塁線をふさいではいけない。
- (2) 保守用防護用具は必ず装着すること。(投手のウォームアップを含む)
- (3) セーフティキャップは必ず装着すること。(控えの捕手を含む)

#### 3. 用具

- (1) 国内大会での使用バットは、アシックス社製消音バットに限る。
- (2) ポニー規則 第8章 用具 H.(1) (膝をカバーしない短パンや、くるぶしまであるズボン形の製品は禁止)を厳守すること。
- (3) 同一リーグで複数のチームを出場させる場合のユニホームは、何らかの方法で、あきらかにチームの違いが判るようにしなければならない。



## 2009年 春季関東大会規定

### 監督・コーチ・審判員

#### 1. 監督・コーチ

- (1) 公式戦において代表の監督、またはコーチとしての登録を認めない。
- (2) 監督・コーチは審判員の兼務を認めない。
- (3) 走塁コーチはイニング途中でのコーチボックス交代を認めない。
- (4) ハーフイニングに1回を越えてタイムアウトの要求はできない。
- (5) ダッグアウト内での喫煙を禁止する。
- (6) 審判員の判定に基づくプレー上の抗議は認めない。抗議が規則の解釈に基づくものである場合は、デビジョンディレクターまたは大会審判長に異議申し立てができる。抗議の対象となる事項を審判員、相手監督が立会いのもとに明記し、試合はそのまま続行し完了させる。
- (7) 公式に試合が終了する以前において、いかなる状況下にあってもチームを球場から引き上げさせた監督またはコーチは退場処分とする。(抗議権喪失)
- (8) 監督は自チームの行動、野球規則の遵守、審判員への服従に関する全責任を負う。
- (9) ダッグアウト内は、ユニホーム着用大人3名、ノン着用スコアラ1名とする。
- (10) 登録書に名前の載っている監督、コーチが監督を務める場合は、変更届けは必要ない。登録書に名前の載っていない人が監督を務める場合は、統一届出用紙を使用して試合開始30分前までに責任審判員へ提出する。
- (11) 監督は複数のチームの監督に登録できない。

#### 2. 審判員

- (1) 審判員は、定められた試合開始時間の30分前に集合しなければならない。
- (2) 審判員は、協会指定の服、帽子、トーナメントエムブレムを着用する。
- (3) 審判員は次のことを心がまえとする。
  - ① 全ての活動は子供たちのために
  - ② 常に向上心を持って
  - ③ 今日の反省、明日の実行
- (4) 公式戦において次のことを確認しなければならない。
  - ① 本部発行の会員証による出場選手の確認
  - ② ダグアウト入り制限人数の確認  
選手18名、ユニホーム着用の監督・コーチ3名、スコアラ1名以内
  - ③ 規定に基づくユニホーム及び用具の確認
  - ④ 規定に基づく登板投手の確認

※ 一年生大会の出場選手資格は、一年生に限る。  
(混合チームでの参加も可能)

※ その他の規定はポニーベースボール 公認 野球規則に基づく。



## 2009年 春季関東大会規定

### 追 記

1. すべり止めロジンは、グラウンドホストチームの負担とし、両チームは同一の物を使用する。
2. 両チームはボールボーイを一人ベンチ横に置く。  
三塁側ファールボールは、一塁側のボールボーイへ転がして渡す。  
一塁側のボールボーイは、球審の要求により、ボールを渡す。  
(ボールボーイは、登録選手以外でも良い。また同一ユニホームでなくても良いが、ヘルメットの着用は必ずすること)
3. 選手の人数がいらない等の理由で控えの捕手ができない場合は、インニング始めの投球練習時の捕手は成人のコーチが行っても良い。